

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究抄録(2022.4)令和2・3年度：0

北海道内のアドバンス助産師が行うペリネイタル・ロス
(周産期の喪失)を経験した父親へのケアの実態調査

出村唯 相原広美 石倉かおり

北海道内のアドバンス助産師が行うペリネイタル・ロス（周産期の喪失）を経験した父親へのケアの実態調査

旭川医科大学病院 周産母子センター

○出村 唯 相原広美 石倉かおり

目的：ペリネイタル・ロス（周産期の喪失）を経験した父親に対するケアの実態を明らかにすること。倫理委員会の承認を得て実施し利益相反はない。

研究方法：北海道内の大学・総合病院に勤務しているアドバンス助産師を対象に、河本（2018）が作成した父親のケアに関する29項目の実施頻度と困難感を4段階尺度で回答を得た。さらにペリネイタル・ロスを経験した父親との関わりの難しさやケアを行う上で大切にしていることについて無記名自記式質問紙調査を行った。

結果：62名から有効回答が得られた。（有効回答率98.4%、回収率67%）アドバンス助産師の85.2%が父親との関わりに困難を感じていながらも、「父親の悲しみを共感する態度で接する」「他の妊産褥婦の声が父親に届かないよう配慮する」といった29項目中15項目で実施率が8割以上であった。また「父親の悲嘆プロセスを説明する」の実施頻度が低く困難感を抱いており、父親のケアについて【母と同じようにケアをする】ことを大切にしていた。

考察：ペリネイタル・ロスを経験した父親の悲嘆過程は体系化されておらず、母親と父親の悲嘆プロセスの相違は明らかになっていないために母親同様のケアをしている現状があると推測する。家族ケアは非常に重要であるが母性や父性は異なるものである。母親、父親それぞれの特徴を押さえたケアが必要である。今後は、父親の悲嘆プロセスについて解明し、ケアの向上を目指していくことが課題である。